

教師用資料

2つのチームの身長を比べよう(正の数・負の数の活用)

■評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
この授業では評価しない	・正の数と負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し説明することができる。	・正の数と負の数を活用した問題解決の方法や過程・結果を振り返って検討しようとしている。

■ルーブリックの例

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
十分に満足できる状況	・2つ以上の考えで正答したうえで、自分の考えのよい点や工夫した点について具体的に記述している。 ・友達の考えについて具体的に記述し、自分の考えとの違いを踏まえて記述している。	・2つ以上の解き方(正誤は問わない)で解こうとしたうえで、今後生かしていきたいことなどについて記述している。
おおむね満足できる状況	・1つの考えで正答して自分の考えのよい点や工夫した点について具体的に記述している。 ・友達の考えのよいところのみを具体的に述べるか、自分の考えをどのように次にしていくかのみを記述している。	・1つの解き方(正誤は問わない)で解こうとしており、今後生かしていきたいことなどについて記述している。
努力を要する状況	・具体的に自分の解き方を振り返って記述できているが、解答が誤っている。 ・友達の考えも、それと比較しての自分の考えも具体的に記述できていない。	・今後生かしていきたいことなどについて記述しているが、1つも解こうとしていない。

教師用資料

■評価のポイント

・知識・技能については、本授業では評価しないこととする。

・授業では、自力解決の時間をできるだけ取り、1つの方法で解いたら、他の方法でも解いてみるという多様な考えを引き出せるように促すことがポイントとなる。このような活動の中で、これまで学習している正負の数を活用するよさに気づくことができると考える。

・思考・判断・表現では、複数の考えで解くことができたか、1つの考えで解くことができたかを評価するが、その際には、正しく答えが求められたことを前提とする。また、友達の考えと自分の考えを比較して記述する項目では、友達の考えを具体的に書いた上で、自分の考えを見直したり、改めたり、深めたりする記述があればAとする。友達の考えを詳細に記述することか、自分の考えを深化するような記述をすることか、そのどちらかが記述できていればBとする。

一方、主体的に学習に取り組む態度については、複数の考えで解こうとしているか、1つの考えで解こうとしているかを評価するが、その際には、答えを正しく導けたかどうかまでは問わない。これは問題に取り組んでいる態度を評価するためである。この評価は、記述だけでなく、授業中の生徒の行動観察(これまでの学習を教科書やノートを見返して、振り返っている様子など)を記録することからも評価できる。

・解き方を何も書けないと評価ができなくなるので、授業中の机間巡視の際に、教師側から考えたことをノート等に表現できるように促す指導を常日頃から行っていくことが大切となる。